



内田雅人 議員

土砂災害への備えと対応は

町長 危険性の周知を図り、迅速な対応に努める



問 広島市北部の土砂災害は、教訓としなければならぬ。奥出雲町にも多くの土砂災害警戒区域がある。広報にも記事を載せてハザードマップもあるが、もっと周知を図る必要がある。実際に避難基準雨量に達する雨が予想される場合に、避難勧告はどのように出されるのか。そのタイミングは、

答 発令はジョーホー奥出雲の告知端末で行い、防災行政無線の屋外拡声機、携帯電話のエリアメールでも告知可能だ。判断はマニュアルに基づいて行う。

問 携帯電話での受信は警戒区域にお住まいの方には特に登録を促すべき

だ。そして深夜に起こった場合、対策本部の設置、住民避難、避難所の対応はどのようにするのか。

答 対策本部は速やかに設置する。避難は状況によつては屋内安全確保も必要だ。

問 対策本部については新仁多庁舎の4階に防災対策室が設けられるが、周辺の三成連担地はほとんどが土砂災害警戒区域だ。そこで発生した場合甚大な被害が予想される。職員は集まれない。臨機応変な対応が求められるが、確認したい。そして避難所は、深夜の場合開いていないという状況が広島であった。夜明けまで屋外で待ったという事例が出たが、奥出雲町ではどう対応するのか。

答 川本総務課長
新仁多庁舎は防災を中心に考えた建物であり、災害時には対策本部を設置する。実際には職員は仁多と横田に両方待機といついともあつた。また避難所の深夜の設

の管理は、総務課と施設管理者とで連絡をとりながら迅速な対応に努める。

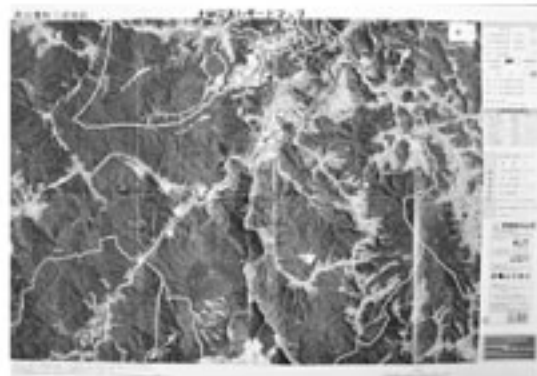
問 まず私たち住民一人ひとりの危険性認識が第一だ。そういう意味でも、最も大きな被害が予想される三成連担地などは、避難訓練の必要があるのではないか。

答 適切な行動、対処の仕方を知り、迅速な行動ができるために必要であり、重要だ。検討する。

問 次に、町長の描く長期的戦略について問う。所信表明の財政運営で触れられた公共施設等総合管理計画の策定は、縦割りではなく課を超えた総合的な情報のもとに判断したものであるべきだ。町長の考えは、

答 総務省の指針にのっとりやっていく。

問 元氣、安心、笑顔のまち、奥出雲町の実現に強い決意を示されたが、そのまちづくりを



各戸に配布されているハザードマップ

しながら、ぜひ全国レベルに積極的に発信していただきたい。ここでの田舎暮らしの中には元氣、安心、笑顔があると、やはり人を増やすことが原動力である。町として決意と勇氣を持って掲げべきだ。

答 情報発信のひとつとして非常に大切な。自然、歴史、文化、食などの地域資源に恵まれ、魅力ある町だと全国に情報発信していくことが、観光の誘客や定住につながる。我々だけでなく、町民の皆さんにも発信をお願いしていく。